

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

雌阿寒岳では昨日（4月15日）18時頃より、ポンマチネシリ火口付近の浅い所を震源とする規模の小さな地震が増加しています。

火山性微動は観測されておらず、その他のデータにも特段の異常は認められないことから、直ちに噴火に至る兆候は見られません。

長期的には、全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ96-1火口南側の地下で温度の上昇した状態が継続している可能性があります。今後の火山活動の推移に注意してください。

平成 21 年 4 月 10 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

○活動概況

・地震の発生状況等（図 1～3）

昨日（4月15日）18時頃より、ポンマチネシリ火口付近の浅い所を震源とする地震が増加しています。地震の規模は小さく、火山性微動は観測されていません。2006年や2008年の噴火前の地震増加の際にみられた、低周波地震の増加や、震源が深い所から浅い所へ移動するといった現象は観測されず、地震回数は上記の活動と比較して少ない状況です。また、地殻変動に特段の変化は認められていません。なお、悪天のため遠望カメラによる火口付近の状況は不明です。

・ポンマチネシリ96-1火口周辺の全磁力の状況（図 5）

ポンマチネシリ96-1火口南側で実施している全磁力連続観測¹⁾によると、全磁力は2013年7月から2014年2月まで顕著に減少しましたが、2014年3月以降は概ね横ばいで推移していました。また、2015年3月中旬頃から全磁力値は減少傾向を示しています。

このことから、96-1火口南側の地下では、長期的には2013年7月以前と比べて温度の上昇した状態が継続している可能性が考えられます。

1) 火山体の南側で全磁力を観測した場合、全磁力値が減少すると火山体内部で温度上昇が、全磁力値が増加すると火山体内部で温度低下が生じていると推定されます。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。

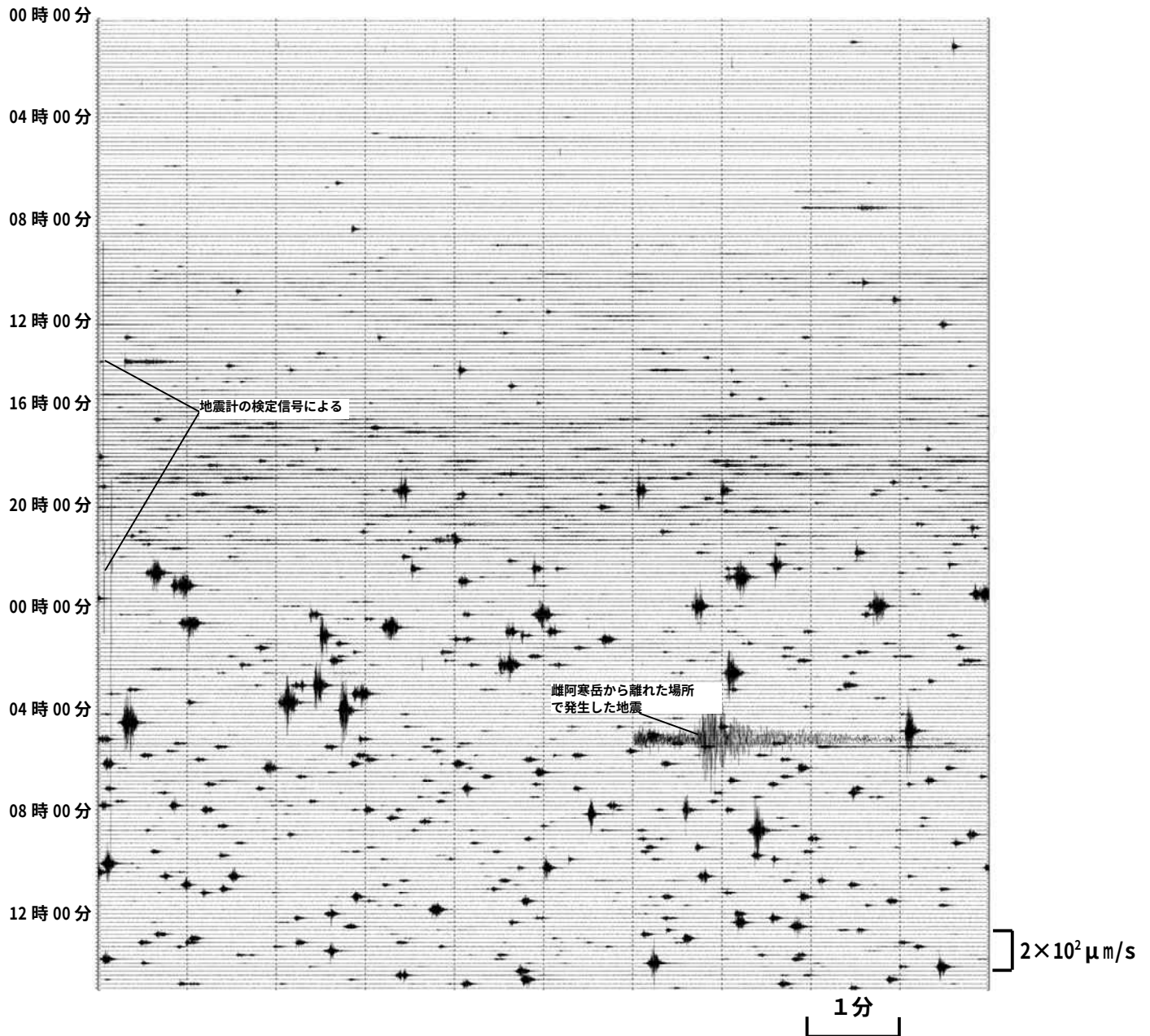


図1 雌阿寒岳 火山性地震の発生状況（4月15日0時～16日15時）
オンネトー南東（活動火口に近い観測点）による
地震回数：15日58回、16日15時まで142回（暫定値）

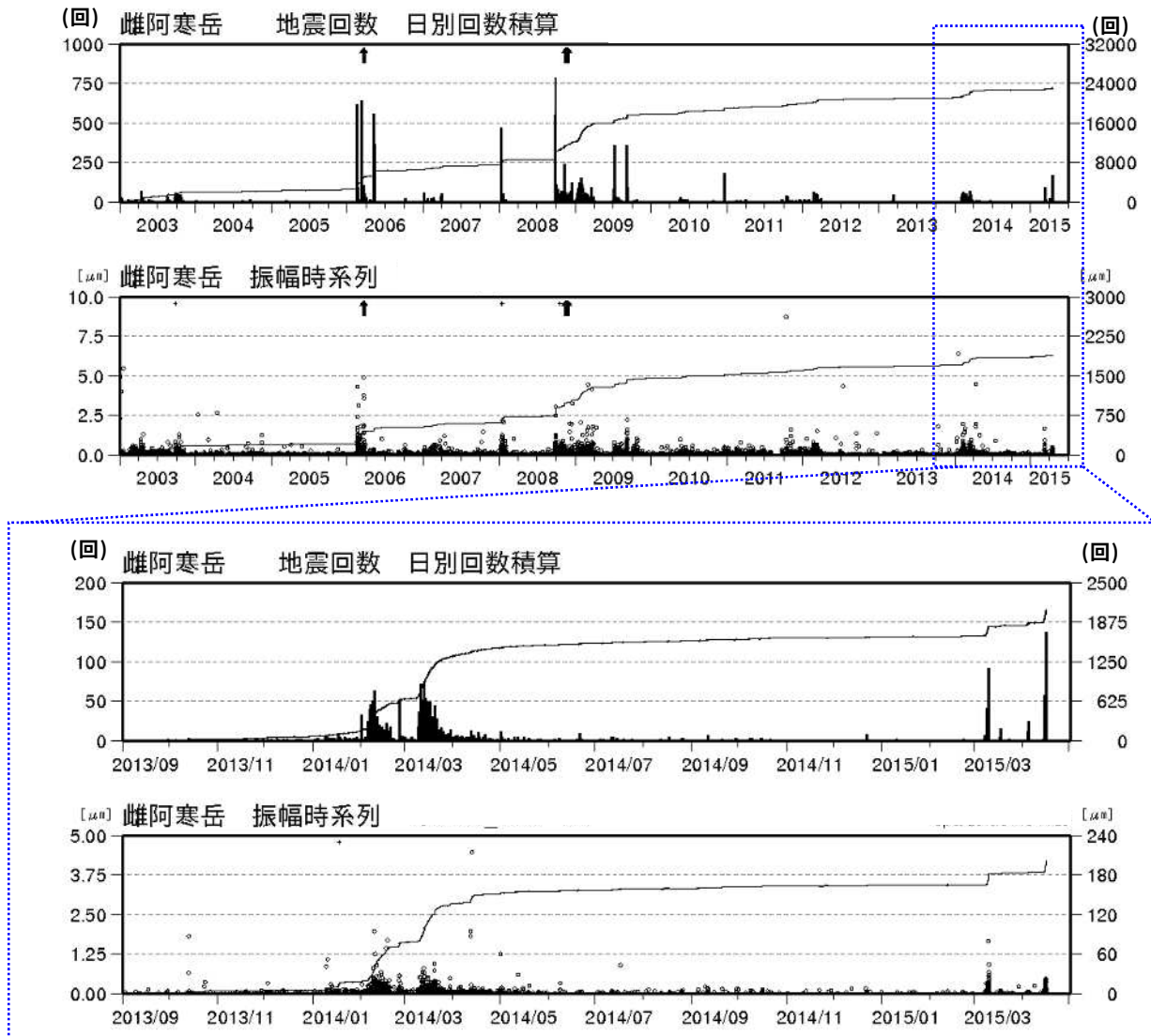


図2 雌阿寒岳 日別地震回数及び振幅時系列 上図：2003年1月1日～2015年4月16日15時
下図：2013年9月1日～2015年4月16日15時

- ・計測基準：オンネトー南東で $0.05\mu\text{m}$ 以上、S-P時間2秒以内の火山性地震です
 - ・黒線は積算回数を示します
 - ・↑はごく小規模な噴火の発生を示します

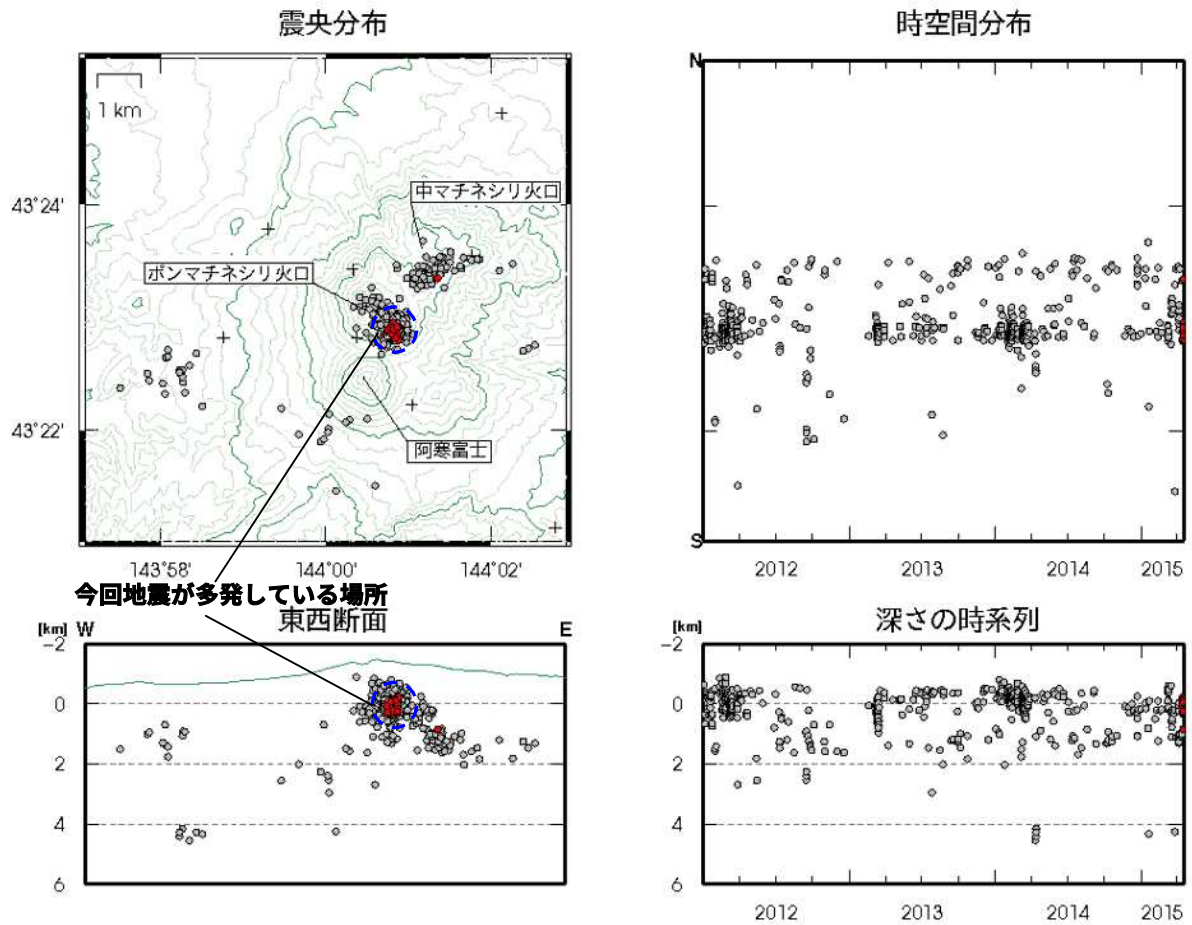


図3 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布（暫定値）
 ●印：2012年1月～2015年4月14日の震源
 ●印：2015年4月15日～4月16日12時の震源
 +印：地震観測点

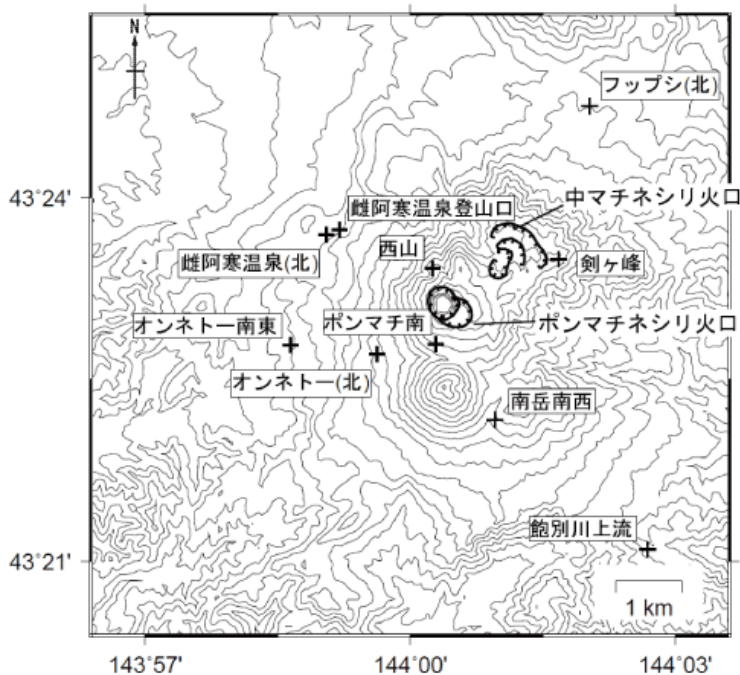


図4 雌阿寒岳 観測点配置図
 +印は観測点の位置を示します
 北海道大学の観測点には
 (北)を付しています

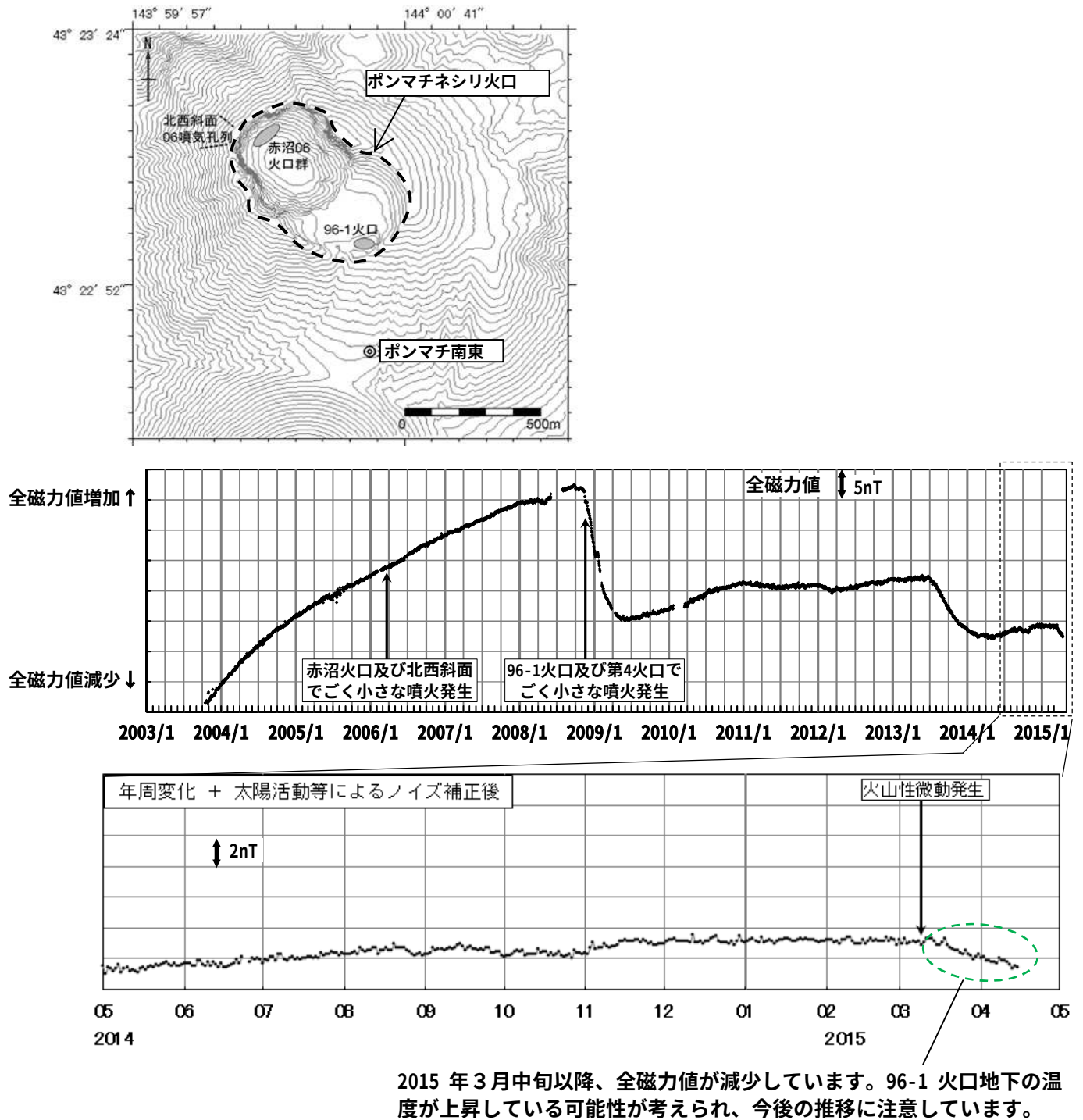


図5 雌阿寒岳 全磁力連続観測点ポンマチ南東（上図中◎）の全磁力値変化

上図：2003年10月16日～2015年4月15日

下図：2014年5月1日～2015年4月15日

・上のグラフでの空白部分は欠測期間です